

徳山工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	人文社会特講	
科目基礎情報							
科目番号	0158		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	情報電子工学科		対象学年		5		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	Bridinging Cultures English for Global Communication						
担当教員	吉留 文男						
到達目標							
グローバル化における自文化と他文化の違いを意識しながら、身の回りの文化的な事象について、自分の考えを論理的に説明・議論できることを目標とする。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1		異文化理解に関するテキストや資料などを読んで、用語の定義や考えなどを理解し、要点を的確に説明できる。		異文化理解に関するテキストや資料などを読んで、用語の定義や考えなどを理解し、概要を概ね説明できる。		異文化理解に関するテキストや資料などを読んで、用語の定義や考えなどについて、概要や要点を説明できない。	
評価項目2		異文化理解に関する専門用語を用い、独自の視点から問題の所在を論理的に表現できる。		異文化理解に関する専門用語を用い、独自の視点から問題の所在を簡潔に表現できる。		異文化理解に関する専門用語を用い、独自の視点から問題の所在を的確に表現できない。	
学科の到達目標項目との関係							
到達目標 A 2 JABEE a							
教育方法等							
概要	グローバル化が進む世界で、異文化摩擦や対立に起因する事象がメディアで流れない日はない。異文化摩擦や対立の起こる原因、その歴史的な背景を学び、これらの問題を克服することが個人、集団においても急務である。本講座の目的は、身近な異文化理解のためのエピソードを教材として学び、同時に、文化理解に関するキーワードを手掛かりに、自文化と異文化を相対的に理解できる視点を培い、広義には文化とは何かを考察することである。						
授業の進め方・方法	授業前半では予習を前提に進め、テキストの概要、要点、さらに、テキストの内容に関する自らの意見をキーワードを用いて説明できることが求められる。授業後半では各回のテーマと密接に関係する歴史、文化事象について講義を行い、知識や理解を深めた後、自分独自の意見をレポートとして作成する。また授業後半では、グループでのプレゼンテーションを行う。						
注意点	定期試験60%、課題の評価（小レポート） 20%、授業で活動評価（プレゼンテーション）20%の合計 100%。						
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	オリエンテーション			授業の進め方や評価についての説明（エッセイの書き方など）	
		2週	多文化教育の実際 アメリカのエリート教育との日本の教育の比較について			異文化理解に関するテキストや資料などを読んで、用語の定義や考えなどを理解し、要点を的確に説明できる。	
		3週	日本人の個人主義 から個人主義を考察する			『空気の研究』 異文化理解に関するテキストや資料などを読んで、用語の定義や考えなどを理解し、要点を的確に説明できる。	
		4週	日本人のマナー から個人主義を考察する			『空気の研究』 異文化理解に関するテキストや資料などを読んで、用語の定義や考えなどを理解し、要点を的確に説明できる。	
		5週	日米の医療文化や制度 格差について			医療 異文化理解に関するテキストや資料などを読んで、用語の定義や考えなどを理解し、要点を的確に説明できる。	
		6週	インドとイギリスの大学比較 ズムの思想について			オリエンタリ 異文化理解に関するテキストや資料などを読んで、用語の定義や考えなどを理解し、要点を的確に説明できる。	
		7週	日英の言語文化の比較 翻訳から考える異文化理解			異文化理解に関するテキストや資料などを読んで、用語の定義や考えなどを理解し、要点を的確に説明できる。	
	8週	レイシズム レオタイプについて			ステ 異文化理解に関するテキストや資料などを読んで、用語の定義や考えなどを理解し、要点を的確に説明できる。		
	4thQ	9週	男女の価値観やコミュニケーション方法 ステレオタイプの危険性について			異文化理解に関するテキストや資料などを読んで、用語の定義や考えなどを理解し、要点を的確に説明できる。	
		10週	日本人の自然観 び」、「さび」から日本文化を考える			「わ 異文化理解に関するテキストや資料などを読んで、用語の定義や考えなどを理解し、要点を的確に説明できる。	
		11週	異文化理解と宗教理解 文化の衝突について			異文化理解に関するテキストや資料などを読んで、用語の定義や考えなどを理解し、要点を的確に説明できる。	
		12週	マスメディアの役割 ンダについて			プロパガ 異文化理解に関するテキストや資料などを読んで、用語の定義や考えなどを理解し、要点を的確に説明できる。	
		13週	自文化の理解 について			プロパガンダ 異文化理解に関するテキストや資料などを読んで、用語の定義や考えなどを理解し、要点を的確に説明できる。	
		14週	プレゼンテーション			これまでの復習	
15週		期末考査			授業で学習した内容から出題する		

		16週	答案返却など				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	0	0	0	20	100
基礎的能力	60	20	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0